

内藤湖南の大英博物館所蔵敦煌文献（佛典・佛經）調査について

玄
幸
子

Naito Konan research on Dunhuang documents (Buddhist scriptures and Buddhism-related documents) in the British Museum

Yukiko Gen

Naito Konan left Japan in July 1924 for the purpose of investigating Dunhuang documents in Britain and France. This paper will focus on the research in the British Museum and clarify the actual situation of research on Dunhuang documents (Buddhist scriptures and Buddhism-related documents) through research notebooks. There are four notebooks in all that recorded Stein documents. The total number of documents recorded in the notebooks is 136, and Buddhism-related documents is 33 of them. These 33 documents include Commentary on the Śrīmālādevīsīṃhanāda-sūtra (S. 524 勝鬘經疏), Records concerning the sacred treasury of the Law (Dharmaratna) under successive dynasties, or views different from the preceding work on the history of the Dhyana School in China (S. 516 歷代法宝記), The Mahāparinirvāṇa-sūtra (S. 81 大般涅槃經) with colophon dated the fifth year of Tianjian (506 A. D.) etc.

内藤湖南の大英博物館所蔵敦煌文献（佛典・佛經）調査について

玄 幸子

一 倫敦調査時の佛典概略

東洋学の泰斗である内藤湖南博士が、長年希求していた英佛での敦煌文献原件調査を主たる目的として欧州旅行に出発したのは、大正十三年（一九二四）七月のことであった。

巴里の調査に先んずるロンドンでの湖南一行の調査は、湖南自身の言を借りれば「佛教以外の漢籍は少数に過ぎないのであるが、佛書は既に矢吹博士が調査せる筈だから、予は佛書以外のものを閲覧したいと申し込んだ^①」のであり、よって「二週間ばかりで凡そ百三四十巻を閲覧し了った^②」のは、基本的に佛書以外の史料であるとされる。

ところが、当時の調査記録ノート^③を詳細に見ると、少なからず佛書および佛教関連文献が含まれている。本稿では調査ノートから佛書および佛教関連の記録を取り出し、倫敦での湖南一行の調査の軌跡を別の側面からたどることにする。

既に別稿^④で倫敦での調査の概略を明らかにしたように、大正十三年九月五

日から始まった大英博物館での原文献調査の総数は全一三五点であった^⑤。この中から、佛書および佛教関連の記録を確認できる文献を抜き出すと次の通りである。なお、内容把握の便宜をはかり『敦煌遺書總目索引新編^⑥』『敦煌遺書最新目錄^⑦』を参照して現在の目録での文献名を簡単に付しておく。紙背のみに見られる場合はVを附し、正面紙背共に確認される場合は／で両方の文献内容が分かるように記す。

54	妙法蓮華經 卷五（尾題）
80 V	草書佛典 佛教戒律
81	大般涅槃經卷第十一（尾題）
107 V	世親菩薩造三藏法師玄奘奉詔譯（首題）辯中邊論卷第一
125	大乘起信論略述卷下
276 V	佛圖澄羅漢和尚讚
316	大乘起信論卷（尾題）／大乘稻芊經隨聽疏
391	八十種相論
516	歷代法寶記一卷

615 V	佛教戒律 沙彌十戒並威儀 (擬)
737	大般涅槃經第二十九 (尾題)
738	大般若波羅蜜多經第七十八 (尾題)
958	大唐西域記卷三
1061 V	唯識論抄要 (擬)
1344 V	論鳩摩羅什通韻
1441 V	維摩押座文 等
1442 V	辯中邊論卷第一 辯相品第二
1603 V	辯中邊論卷第二 (首題)
1629 ⁽⁹⁾	勝鬘經疏／无量壽觀經義記一卷
2154	佛經 佛說甚深大迴向經 (首尾俱全)
2267 V	辯中邊論卷第一 (尾題)
2295 V	修道説法戒禪之三 (首題)
2438	藥方・三萬佛同根本神秘之印並法／佛經戒律
2658	大雲經疏
2659	下部讚一卷 (尾題) 僧羯磨卷上／大唐西域記
3013	大乘無量壽經
3469	一切經音義
3491 V	頻婆娑羅王后宮綵女功德意供養塔生天因緣變
3607	祈求中國檀越普濟欠經帖
3824	大乘無量壽經
Ch. 1080	化度寺碑 拓本
Ch. 0014	金剛經 板本

print 1 故圓鑒大師二十四孝押座文

右都合三十三件の記録が認められた。よって調査した全一三六点のほぼ四分の一に佛書ないし関連文献が含まれていることとなり、割合からすれば決して少なくないと言える。これらの記録内容を確認することを通じて、湖南及び一行の倫敦での敦煌文献調査における佛典・佛教関連文献に対する方針・姿勢を確認できよう。次章以下、具体的に調査の実態を検討する。なおノートの記録内容全体については後添資料を参照されたい。

二 矢吹慶輝の調査状況

検討に入るに先立って、調査に向けての事前準備状況を確認しておく必要がある。とりわけ「佛書以外のものを閲覧」申請する理由となった矢吹慶輝の研究状況は把握しておきたい。

すでに多くの論著で矢吹慶輝の佛典調査と研究については紹介・言及されているので、ここでは、倫敦調査に関連する事項に焦点を当て湖南一行の調査時にどこまで参照しえたのかという点を明確にしておこう。

矢吹慶輝の大英博物館での調査は大正五年六月～十一月が初回である。その後大正八年以降啓明會の補助を受けロートグラフ撮影計画を実行するもスライムがロンドンを離れ責任者がジャイルズに代わり博物館の方針が変更されたことで大いに支障をきたしたため、啓明會から追加補助を受け大正十一年十二月～翌年七月に再度渡英、第二回目の調査を行った。その結果大正十四年一月までに計画の完成をみて、珍篇佚書の写真六千数十枚を撮影し終え

た。そこで大正十四年四月に東洋文庫で大英博物館藏燉煌出土古寫佛典の展覽会が開催されたのである。

さて、湖南の欧州調査行であるが、大正十三年の七月六日に神戸から伏見丸で出航し、十四年の二月三日に帰朝したのであり、参照し得たのは第一回調査の報告のみであつたと考えられる。そこで第一回調査に関して少し詳しくみてみよう。前述の矢吹慶輝大英博物館調査の概要をはじめ、この間の事情は『鳴沙餘韻解説後記』『スタイン氏蒐集燉煌出土支那古寫本の調査』^⑨に詳しい。第一回目調査について矢吹自身の回顧を引用する。

第一回の自分の調査の時には大英博物館の地下室の一部——獨逸のゼッペリン襲來の騒ぎで、彼の有名なローセッタ・ストーンも地下室に仕舞はれた時であつた——スタイン氏蒐集室で、スタイン氏と助手のロリマー嬢とが忙しく原稿整理や其の他の事務を採っている側で、最初は一包づゝ借覽したが、後には書庫や書架の鍵を借受けて自由に好きな寫本を取出して閱覽し得るの特典を與へられた。∴(略)∴珍らしいと思つたものは、必要な一部丈をロートグラフに撮影させつゝ、六月から十一月初旬まで愉快に調査や鑑定を續けた。

中略

此の大正五年の蒐集の白寫眞は大正六年五月、宗教大學主催の燉煌出土古寫佛典ロートグラフ展覽會に出陳したのが初めて、∴(略)∴『燉煌地方出土古寫佛典ロートグラフ解説目錄』を公表した。そしてその全文が『宗教研究』第二巻第五、第六號に採録された。

(一六頁)

この第一回調査の記録を湖南一行は目にする機会があつた筈である。いま『燉煌地方出土古寫佛典ロートグラフ解説目錄』^⑩で取り上げられる百三十二点について湖南調査記録との重複を確認したところ、同じものと確認できたのは『無量壽宗要經』『勝鬘經義記』『摩尼教斷片(下部讚)』の三点のみである。もつともノートの記録に「佛經末疏」とあるだけのようなのは、具体的に何を指すのか今では明らかにし得ないのであり、重複したものをもっと多かつた可能性は否めない。

また別資料を実際に参照する例がノートの記録に見えるので、検討してみよう。一六二九(斯五二四)『勝鬘經疏』の記録に「宗教研究新第一巻第一号を見よ、本經末尾の写真ありて矢吹教授の解題あり。矢吹教授英国博物館所藏スタイン写本写真帖」と記される。『矢吹教授英国博物館所藏スタイン写本写真帖』というのは矢吹将来のロートグラフの一部について複写写真に解題を附した図録(啓明會 大正十三年六月發行)である。巻頭に次の解説が付される。

文學博士矢吹慶輝ハ大正八年來本會援助ノ下ニ、英國博物館所藏スタイン古寫本中特ニ同博物館ノ許諾ヲ得、主トシテ古佚佛典并ニ古文獻ヨリロートグラフ約五千枚ヲ撮影セラレタリ、本帖ハ其ノ一斑ヲ知ルガ爲メ、拔萃復寫シタルモノニシテ、以テ研究者ノ參考ニ資セントス

大正十三年六月 財團法人 啓明會

掲載されているのは「建初元年寫律文(失題)跋」をはじめ全十二点の複写写真資料である。この中の延昌四年『勝鬘經疏』を抜き出し解題を附して(新)『宗教研究』に再録したのは創刊号の巻頭を飾る意図があつただろうか。

写真帖の発行が大正十三年六月、(新)『宗教研究』創刊号は公式には大正十三年九月一日発行となっており、順序からするとそのように考えるのが自然であろう。いずれにせよ(新)『宗教研究』創刊号の発行時には湖南一行は既に欧州にあったので、実際に参照したのは『写真帖』であつたはずである。

これを除けば、ノートに具体的に表れる参考資料は董康目録を指す「董」が斯一三四四Vに見えるほかは見当たらない。本来佛典を除く文献を調査するつもりであつたところに予想外の展開となつたことを考慮すれば、佛典佛經関連文献に関する事前準備はほとんどされていなかったと考えるのが当然かも知れない。

三 大英博物館での佛典佛教文献調査の実態

では次に、目的外であつた佛典佛教文献の調査はどのように進められたのか、その実態をノートの記録から検討してみよう。

まず記録されなかつたか、あるいは非常に簡単な記述しかないものを考察してみよう。たとえばノート③¹⁰には斯一六四五の記録がある。「道教断片」とあり末行を録した上で「書ハ太上業報因縁經ト同一筆ナルベシ」と重要な指摘がある。現在目録ではこの文献は『太上業報因縁經』と比定されている。ところが紙背文献(四分律要抄)に関してノートには全く記載がない。

また、「律末疏」「佛經末疏」「佛教戒律」などの簡単な記載で終わるものは斯八〇 无上秘要卷第十、斯一〇六一 洞淵神咒經卷第四、斯一四四二 毛詩鄭箋、斯二四三八 辟谷諸方第四種などの紙背文書であり、これらの記述も調査の重点がReeloにあつたことを物語っている。ただ、データがデジ

タル化され、検索も容易にできる現在の状況とは異なり、調査当時は膨大な佛典の中のどの部分であるか短時間内に判断するのは相当に困難であつたに違いなく、簡単な記録にとどめざるを得なかつたのは当然の結果ともいえよう。

また、大英博物館での調査については、請求番号、あるいは内容を示して閲覧希望を出すというような手順ではなく、佛典以外のものを請求するということであつたようだ。このことは前掲の湖南自身の言をさらに詳しく引用すれば明らかになる。

巴里の調査は後まはしとして、先ず倫敦に往つたが、九月上旬大英博物館の敦煌古書調査の主任者ジャイルズ博士に面會し、間もなくその調査に着手することになった。……此處の敦煌古書は佛教に關するものが非常に多く、佛教以外の漢籍は少數に過ぎないのであるが、佛書は既に矢吹博士が調査せる筈だから、予は佛書以外のものを閲覧したいと申し込んだので、多數の古書中から之を擇り出すことは、目録の未だ完成してゐない際であるから、ジャイルズ博士には餘程骨の折れる仕事であつたに相違なく、それがために二週間ばかりで凡そ百三四十卷を閲覧し了つた時に、ジャイルズ博士から、之で佛書以外のものは略ぼ盡してゐることの言はれた。^(二二四頁)¹¹

大英博物館所藏敦煌文献については、目録もなかつたのであるから、請求番号はおろか文献名での閲覧申請自体望むべくもなかつたことが分かる。事前準備は佛典のみにあらず所藏文献全体の内実の把握すら困難であつた当時の

状況は次の引用から見てもよい。

以上の人々^⑬が調査した後を承けて、予は之に着手したのであるが、……佛蘭西に現在するものには如何なるものがあるかという豫測がつき、大いに便宜を得たが、英國の方は之に反し、豫め研究に必要な知識を用意する事を得なかつたけれど、それだけまた如何なるものがあるかもしれないという希望を有つて、之を樂みにして渡航の途についていたのである。

(二三・二四頁)

「豫め研究に必要な知識を用意する事を得なかつた」状況で、出されるままの文献調査を進めるなか、予定外の佛典佛教関連文献について詳細な記録があるものは、かえって注目に値するといえよう。丁寧に記録される場合は、料紙の情報(紙の種類・大きさ)、計測数値、行数、一行の文字数、首題尾題、紀年の有無、などの情報を記録し、全体ないし一部を録文する。また書体について言及があるのは湖南ノートの特徴ともいえよう。

湖南自身は佛典佛教文献自体にはさほど食指が動かなかつたことは、補遺の採録状況などからも見て取れる。たとえば、斯六一五の記録は、ノート383およびノート39に録される。383は石濱純太郎の手になるかと思われるが、Rectoの『南華真經達生品第十九』の録文はほぼ変わらないにもかかわらず、Verso 佛經戒律についての湖南の手になる補遺ノートでは非常に簡潔な記録にとどまっている。同様の佛典佛教文献に対する指向の薄さは全般にその傾向を見て取れる。

しかし一方で重要な文献についてはポイントを外さず記録を詳細にとって

いる点はさすがといえよう。比較的詳細な記録が見られるものは、斯五四法華經／斯八一 大般涅槃經卷第十一／斯一二五 草書佛教末疏／斯三一六大乘起信論／斯五一六 歷代法寶記／一六二九(斯五二四)勝鬘經疏／斯九五八 大唐西域記／斯一四四一V 慶揚文第一／斯一六〇三V 辯中邊論卷／斯二一五四 佛說甚深大迴向經／斯二六五八 武后識記／斯三四六九 玄應一切經音義／斯三六〇七 欠經目錄與書である。湖南自身も次のように述べる。

敦煌古書の中で佛教に關するものは、前に述べたやうになるべく看るのを避けたのであつたが、偶々極めて珍らしきものに接した時はやはり閲覧したので、その内容については目錄を發表する時に別に説明しようと思ふ

(二三頁)

もしこの言の通り「目錄」が公開されていたならば、前述の十三点については恐らく何らかの解説が付けられたものと考えられる。

さらに湖南が何れを重視していたかを検証するのに写真請求の状況を見ることも有用であろう。倫敦調査時の写真請求の實際に關してはすでに別稿でまとめたので^⑭、ここでは、その中から佛典佛教文献に限って再度確認することにする。都合三十三件の内、写真請求を出したのは次の九件であつたよう

斯八十一	大般涅槃經卷第十一	可
斯五一六	歷代法寶記	
斯六一五	南華真經達生品第十九	

斯二一五四 佛説甚深大迴向經 可

斯二六五八 武后識記

斯二六五九 下部讚

斯三四六九 一切經音義 可

木刻一號 故圓鑒大師二十四孝押座文 可

木刻二號 金剛經 板本 可

ただし、斯六一五は紙背ではなく「南華真經達生品第十九」に重点があつたことは前述のとおりであり、この請求内容からも明白である。また、斯二六五九も紙背ではなくマニ教文献が重視されているので、佛典佛教文献に限れば、「大般涅槃經卷第十一」「歴代法寶記」「佛説甚深大迴向經」「武后識記」「一切經音義」と版本「故圓鑒大師二十四孝押座文」「金剛經」ということになる。このうち写真撮影許可されたものは右の「可」を付けた五点のみであった。¹⁵⁾

「大般涅槃經卷第十一」は天鑒五年（五〇六）の紀年および題跋を有し、書体も非常に美しい筋の良い寫經である。「歴代法寶記」は中国古禪史研究に資する未傳史料。「佛説甚深大迴向經」は紀年題跋有り、矢吹の所謂「北周破佛の後を承けし隋朝興佛の一遺品として、興味ある支那佛教の一史料¹⁶⁾」である。ノートに「武后識記」と録されるのは、現代の目録では「大雲經疏」と比定されるが則天文字が多数使用されている。また、既に矢吹の報告を確認していたため写真請求を出さなかつたかと思われるが「勝鬘經疏」も未傳來の稀代の逸品として注目されていた資料である。

以上、総体的にみて、佛教教理に関連する文献はほとんど挙がつておらず、歴史に関連する史料に重きを置く傾向が強いと言えるのは当然の結果ともい

えようか。

四 まとめ

湖南の倫敦での調査は、意に反して期待外れに終わったというのが、湖南自身の報告の中からも読み取れるのであるが、ノートの記録を詳細に分析すると意外にも肝要な史料は一通り実見しているという印象を受ける。

ただ、調査自体は、大英博物館の整理が間に合わず不便を極めただろうということはノートの記録に一部旧整理番号で記載されているものがあることから推し量ることができる。

さいごに湖南自身の報告を確認してみよう。

佛教のものは、自分はつとめて之を観ることを避けたが、寺院の文書、儀式に關する文範、或は實際儀式に使つた文牘類は、元來その文庫が寺院に附屬してゐたためか非常に多數で、中には經の目録やら寺の什物の目録、納所の帳簿類まで含んでゐる。その中には往々また敦煌の歴史を徵するに足るものもあつて、綿密にそれを閲したならば、案外興味ある資料を発見するかも知れぬが、それらを熟讀するの時間なきを遺憾とした。その他佛教のもので、時に眼に觸れたものゝ中に、日本の藏經中に無き珍しいものがある。英國にあるものは矢吹博士によつて大體寫し取られたらしいけれども、佛蘭西に在る分は未だ着手されないものが相應に多數を占めてゐるやうである。

(二二九—二三〇頁)

先に見たように、矢吹慶輝の大英博物館所蔵敦煌佛教文献の調査がほぼ完成するのを目前に行われた湖南の英佛敦煌文献調査において、当然のことながら積極的に佛典の調査をすることはなかったことは想像に難くない。むしろ矢吹が果たせなかった佛典以外の原文献調査および写真資料獲得を主たる目的として意気揚々と出かけたに違いない。ところが博物館の事情で全く思うように進まないという不測の事態にでくわし、大きな失意を抱いたのは無理からぬことであった。しかし実際当時の調査記録を見ると、意外にも重要な文献をおさえて調査した実態が浮かびあがってくる。限られた状況の中で最善を尽くした調査であったのである。

【佛典関連部分のノート録文】

斯五四¹⁷ 法華經

首缺
有後題
黄麻紙
初唐書頗佳
欄内 縦 8吋強

(38-3)¹⁸

從地踊出品第十五
如來壽量品第十六
妙法蓮華經 分別功德品第十七
妙法蓮華經 卷第五

斯八〇¹⁹ 无上秘要卷第十

黄麻紙
末
開元六年二月八日沙州燉煌縣神泉觀士馬處
幽并姪道士馬抱一奉為七代先三及所生
父母法界蒼生敬寫此經供養²⁰

(38-3)

三十七行
首缺
末有題名
背 律末疏

斯八一 大般涅槃經卷第十一

首缺
欄内 縦 7⁷/₈吋

書頗佳
(38-3)
總三百三十二行
行 十七字
衆生
薩如
誓願

何縁女
今日唱

5 言有疾
有病人不能坐起俯仰
6 進止食飲不御漿水不下亦復不能教戒諸

154 大般涅槃經聖行品第七

智慧捨離故名聖人有七聖覺故名聖人以
是義故復名聖行

大般涅槃經卷第十一

天鑒五年七月廿五日佛弟子譙
良願奉為 亡父於荊州竹林寺
敬造大般涅槃經一部願七世
含識速登法王无畏之地比丘
僧倫驥弘亮二人為營

斯一〇七V 背 上部に「廿四行」と横書

(38)

辯中邊論卷第一

世親菩薩造三藏法師玄奘奉詔譯

斯一二五 草書佛教末疏²¹

二百八十五行

(37-1)

中五十一行殘紙

論 或為眷屬至無量行緣 ○述曰下明用於中

有二 初明別用 後辨用之益 此初也 文中二義

論 若有起至如來之藏 述曰 此即第三舉

德以釋名 若心更起外念求之 即是不足故
有少也

斯二七六V

(背) 五代佛書

- 2 佛圖澄羅漢和尚讚
- 1 釈迦小傳
- 3 □□法師讚

(37-1)

斯五一六 歷代法宝記^㉓

583 時 9 $\frac{1}{8}$ 時

(383)

有前後題 首穢損アリ

一行二十二三字

一六二九^㉔ (斯五二四) 勝鬘經疏

(383)

長卷 欄内縦 3 $\frac{3}{8}$ 9

次橋尸迦以下答第一問當何名此經也

一校竟

斯三一六 大乘起信論

(37-1)

界 修 遠 離

順行不取不念乃至久遠熏習力故無明則滅

受所供養許

延昌四年五月廿三日於京承明寺寫勝鬘疏一部高昌客道人得

諸佛甚深廣大義

我今隨分總持說

迴此功德如法性

普利一切眾生界

(勘問) 朱書

大乘起信論卷

天寶二年八月十三日超俗寺僧靈暉寫

宗教研究新第一卷第一号を見よ、本經末尾の
写真ありて矢吹教授の解題あり
矢吹教授英国博物館所蔵スタイルン写本写真帖

背 末疏^㉕

无量壽觀經義記一卷

約10 時 行約廿一二字

斯三九一 (八十種相論) 五代、敦煌麻紙

(37-1)

五十四者

八十者

此經開首先知五要然後釋名何者五要 第一須知教
之大小教別二藏謂聲聞藏及菩薩藏教聲聞法名聲聞

斯六一五 V 背 戒律 (38-3)²⁵

唐末書 首缺 七十九行 内四行半缺

十吋 紙全体

1 問事 四者當

2 戸 上廁有五事 一者到廁門看有人无人

眾山須彌最 眾流海為最 眾經億百千 戒經為上最

是故智人堅持禁戒乃至喪失身命終不毀犯故經云大惡

必到戒有如是功德不可思議努力專心受持讀誦如說脩行

以下余白

斯七三七 大般涅槃經卷第廿九 (37-1)

十六國付寫經

軸アリ 白麻

尾

大般涅槃經弓第廿九 比丘法威所供養經

斯七三八 大般若波羅蜜多經第七十八 全卷 (37-3)

標題を具ス 五代寫 敦煌紙

斯九五八 大唐西域記 (38-3)

欄内 5/8吋 3/8吋 10吋 白麻紙

卷首 国名ハ二列ナラズ 一行ト半行 中唐 一行ニス

明方冊藏本 敦煌本

迦涇彌羅 迦湿弥羅

曷羅闍 邏

地利不滋 滋

多蒲葡 陶

不切禁 不切禁

大同印度 無大字

來蘇嬖伐宰堵阿 來作夾 嬖伐二字作婆

今漸減少 今作金

喜誦其文 喜作善

異道雜居 雜作離

瞢揭釐城東四五里 別行頂

大宰堵波 大上有有字

羯利王 庚言闕諍 云哥利譌 注云上有舊字

肢體 闕 肢作支注無闕字

(ノート上部録文)

迦湿弥羅國

半攸 反奴故 蹉國

曷羅闍補羅國

烏仗那國圍五千餘里……

斯一〇六一V

(37-1)

(背) 佛經末疏 不記

維摩押座文

印砂佛文

燃燈文

以上皆佛教ニ關スルモノ

斯一三四四V

16 inch 董

(37-1)

(背)(1) 悉談音韻書 二十九行

(初) 鳩摩羅什法師通韻本為五十二字生得二百八十

二文就裏十四之聲 (右一行)

(末) 並皆羅什八處輪轉了了分明古今不失

(2) 脩多羅法門卷第一 紀王府椽太原郭琯

奉 教撰

六十八行 末欠

斯一四四二V

(37-3)

(背) 佛經末疏

斯一六〇三V

(38-3)

背 五十六行 $10\frac{1}{8}$ 吋 35 吋

1 辯中邊論卷第二 世親菩薩造 三藏法師玄奘奉 詔譯

辯真實品第三 已辯其障當說真實頌曰真實唯有十

(37-1)

斯一四四一V

(背) 慶揚文第一

讚功德文第二

患文第四

難月文

亡父母文

二月八日文

安傘文

患難月文

斯二一五四²⁶

(37-1)

願樂品第三

請勸品第四

54 理極成依三 論曰若事世間共所安立申習隨入覺慧所取一切

55 世間共執此事是地

56 於根本

實實

辟福品第六

佛說甚深大迴向經

佛說甚深大迴向經

大隋開皇九年四月八日 皇后為法界眾生敬造一切經流通供養

斯二二六七V

背 辯中邊論卷第一 首缺

標題共百二十三行 二十三四字 書不佳

123 辯中邊論卷第一

124 辯中邊論卷第一 世親菩薩造 三藏法師玄奘奉 詔

125 辯中邊論卷第二 世親菩薩造 三藏法師玄奘奉 詔譯

斯二二九五V 背

菩薩無相貌等 五言十五首

心海集 至道篇 五言三十首

修道說法戒禪之三

斯二四三八

初メ六十九行 仙方 其標目ヲ知ルベキモノ在ノ如シ 半切レ

(1) 絶穀仙方

玄三尸方

採黃精方

絶穀不飢方

又治三尸方

(2) 三方佛同根本神秘ノ印并法

百二十行 半分以上断簡

(背) 佛教末疏

斯二六五八

武后識記 前後缺

9 $\frac{1}{8}$ 吋 246 吋

黃麻

武后文字多シ 書頗佳

斯二六五九

下部讚 背 往西天求法沙門智嚴西傳記寫百一卷

首缺

可覽讚夷數文²⁷

讚夷數文 第二疊

歎無常文 末思信法王為暴君所逼因即製之

普啟讚文 末夜暮闍作

稱讚忙你具智王 諸慕闍作

一者明尊 那羅延佛作

收食單偈 大明使釋

收食單偈 第二疊

歎諸護法明使文子黑哆忙你電達作有三疊

歎無上明尊偈文 法王作之

歎五明文 諸慕闍作 有兩疊

歎明界文 凡七十八頌分四句 未冒慕闍撰

第一句齋默結願用之

第二凡常日結願用之

此偈讚明尊訖末後結願用之

此偈讚日光訖末後結願用之

此偈讚盧舍那訖末後結願用之

此偈讚夷數訖末後結願用之

此偈讚忙你佛訖末後結願用之

此偈凡莫日用為結願

此偈凡至莫日与諸聽者懺悔願文

此偈結諸唄願而乃用之

此偈為亡者受供結願用之

此偈你逾沙懺悔文

吉時吉日翻斯讚唄上願三常捨過及四處法身下願

五級明群乃至十方賢哲宜為聖言无盡凡識

有厓梵本三千之條所譯二十餘道又緣經

讚唄願皆依四處製焉但道明所翻譯者一

依梵本如有樂習學者先誦諸文後暫示

之」即知次第其寫者存心勘校如法裴治其讚

者必就明師」須知訛殊於是法門蕩蕩如

日月之高明法侶行行若」江漢之清肅唯

願」

皇王延祚寥窳忠誠四海咸寧万人安樂

下部讚一卷

尾 | 敦煌戒本羯磨法經アリ 298 吋

(背) 西域記第一卷 10 $\frac{5}{8}$ 吋

往生礼懺文²⁸

斯三〇一三

(38-3)

無量壽宗要經

首尾缺

穀紙

斯三四六九

玄應一切經音義 断簡? 23 吋 黄麻紙 中唐 (37-1)

欠 二行半

為作 二行

晨朝 二行

頗梨 五行

馬腦 四行

號哭 四行

涕泣 一行

哽噎 五行

震動 三行

戰掉 四行
逮得 一行 (殆ンド欠)

斯三四九一V

(背) 頻婆娑羅王后宮綵女功德意供養塔生天因緣變

(38-3)

Print 1 (木刻一號 8102 Or. 8210/P. 1)⁽³¹⁾

(37-1)

故圓鑒大師二十四孝押座文 印本

初二句八言 次百七句七言 末句八言

五十五行
縱 $34\frac{1}{2}$ 吋
 $10\frac{1}{2}$ 吋

斯三六〇七

欠經目錄奧書 敦煌紙

(37-1)

Ch. 0014 (木刻一號 8083 Or. 8210/P. 2)⁽³²⁾

(38-3)

五行 目錄無し

上件所欠經律論本者蓋為邊方邑衆

仏法難聞而又遺失於教言何以得安於人物切望

中国壇越普濟乞心使 中外之藏數俱全遣來

今之凡夫轉讀便是受 仏付囑傳授教

敕令法久住世間矣

卷首ニ文書ヲ添付シアリ
卷首画⁽³³⁾
四八行 六枚 十八字
五二行 頌四句 句五字 一行
四九行

斯三八二四

無量壽宗要經? 穀紙

(38-3)

唵 伊哩帝 伊矢哩 戌噓駄 毗舍耶 毗舍耶
娑婆訶

Ch1080 (斯五七九1 6182)⁽²⁹⁾⁽³⁰⁾

(37-3)

化度寺碑 拓本

縱 $4\frac{3}{8}$ 吋 横 3 吋

半葉 四行 五字 五枚

真如之設教

處訥	尊體	咸通九年四月十五日王玠為 二親敬造普施
□	重下情禱望謹狀	
啟不審近日		

註

- (1) 「歐洲にて見たる東洋學資料」(『目睹書譚』『内藤湖南全集』第十二卷二二四頁)
- (2) 前掲書「歐洲にて見たる東洋學資料」同頁
- (3) 調査記録ノート全冊は現在関西大学図書館内藤文庫に所蔵される。玄幸子・高田時雄共編『内藤湖南敦煌遺書調査記録續編——英佛調査ノート』(関西大学出版部 二〇一七年三月)として全冊を影印出版したので参照されたい。
- (4) 拙論「ノートから見る内藤湖南敦煌遺書英佛調査の實態」(前掲書『内藤湖南敦煌遺書調査記録續編——英佛調査ノート』第十五・三二頁)
- (5) 資料番号(3926まべS省略)は次の通りである。
 10¹ 19⁵ 54⁶ 63⁷ 77⁸ 78⁹ 80¹ 81² 85³ 107⁴ 113⁵ 125⁶ 133⁷ 134⁸ 170⁹
 189¹ 196² 238³ 276⁴ 316⁵ 374⁶ 376⁷ 391⁸ 425⁹ 446¹ 466² 467³ 479⁴ 516⁵
 518⁶ 524⁷ 525⁸ 527⁹ 557¹ 575² 602³ 612⁴ 614⁵ 615⁶ 617⁷ 705⁸ 707⁹ 728¹
 737² 738³ 747⁴ 782⁵ 784⁶ 789⁷ 796⁸ 799⁹ 800¹ 801² 809³ 810⁴ 811⁵ 861⁶
 930⁷ 932⁸ 957⁹ 958¹ 1020² 1061³ 1113⁴ 1142⁵ 1163⁶ 1285⁷ 1308⁸ 1339⁹ 1344¹
 1376² 1386³ 1396⁴ 1438⁵ 1441⁶ 1442⁷ 1443⁸ 1467⁹ 1473¹ 1477² 1586³ 1588⁴
 1603⁵ 1605⁶ 1645⁷ 1722⁸ 1728⁹ 1765¹ 1810² 1891³ 1906⁴ 1920⁵ 2049⁶ 2056⁷
 2060⁸ 2060⁹ 2071¹ 2074² 2122³ 2154⁴ 2200⁵ 2222⁶ 2263⁷ 2267⁸ 2295⁹ 2438¹
 2588² 2590³ 2658⁴ 2659⁵ 2703⁶ 2710⁷ 2984⁸ 3011⁹ 3013¹ 3135² 3227³ 3347⁴
 3387⁵ 3389⁶ 3391⁷ 3393⁸ 3395⁹ 3469¹ 3491² 3553³ 3557⁴ 3607⁵ 3880⁶ 3824⁷
 3831⁸ 3926⁹ Ch. 0014¹ Ch 1080² (print 1) など、本稿では print 1 を加えて検討する。すべて全二二六件となる。
- (6) 敦煌研究院編 中華書局出版 二〇〇〇年
- (7) 黄永武編 新文豐出版公司 一九八六年
- (8) この整理番号は旧番号であり斯五二四にあたる。
- (9) 昭和八年四月、岩波書店発行
- (10) 矢吹慶輝編、大正六年五月二十二日、宗教大學創立記念展覽會

- (11) 以後特に断りがなく頁数のみ記す場合は前掲書「歐洲にて見たる東洋學資料」からの引用である。
- (12) 当時ジャイルズによる資料の整理が進んでいなかったことは、ノートの記録にS番号以外の旧番号が見えることからもうかがえる。本稿でとりあげた文献中の一六二九(斯五二四)と一〇八〇(斯五七九二)がそうである。後添の写真1、写真2を参照されたい。
- (13) 前段落に、大正二年の狩野直樹、濱田耕作による調査、矢吹慶輝の佛教関連文献の調査、大正九年から十一年にかけての羽田亨の調査、さらに羅振玉、董康の調査出版の状況を紹介する。
- (14) 拙論「ノートから見る内藤湖南敦煌遺書英佛調査の實態」(前掲『内藤湖南敦煌遺書調査記録續編——英佛調査ノート』所収 二四〇二七頁)
- (15) ただし、下部讀については、「摩尼教に關するものがあつて、ペリオ氏の發表された以外にも英國の方で摩尼教の非常に大いなる卷を見出したが、その寫眞は未だ許さるゝには至らなかった。(この卷の寫眞は其後偶然にペリオ氏より羽田博士の許へ送つて來た。)」(『歐洲にて見たる東洋學資料』二三〇頁)ということである。
- (16) 『鳴沙餘韻解説』(岩波書店 一九三三年)二九二頁
- (17) ノートの記載はS54を横書きにするが、本稿では縦書き表記漢字漢数字にあらためた。以下同様。
- (18) スタイン将来文献の記録ノートは全四冊(37-1/37-3/38-3/39)である。記録の重複する場合は最も詳細な記述箇所を引用しノート番号を()内に記す。
- (19) 上に (cf Pelliot collection) と横書
- (20) 以上三行は、原件の行間に別の資料が書き込まれているため後で書き入れるつもりがあったのか一行あけて記録されている
- (21) 現在『大乘起信論略述』巻下に比定される。
- (22) Vは現在『大乘稻芊經隨聽疏』に比定される。
- (23) 原件首尾題とも『曆代法寶記』ノート39は欄内大小の記述無し、また「毎

行二十三四字」とする。

(24) Giles 1957 以前の整理番号。後掲の写真参照。

(25) ノート 39 の記載は「唐末書 首缺 七十九行 内四行半缺」の一行のみの簡潔な記録となっている。

(26) 前半部分は現在「三曼陀跋陀羅菩薩經」に比定される。

(27) 紙幅の關係上、ここ以降、行間の省略記号は記載しない。

(28) 原件は「往生礼讃文一卷」

(29) Giles 1957 の Serial No. による。

(30) 資料番号については、IDP の写真で Ch. 1080 および Ch. 00123/S. 5791 が確認できる。後掲の写真参照。

(31) 上は『敦煌遺書最新目録』の整理番号、中は Giles 1957 の Serial No.、下は IDP 整理番号である。

(32) 上頁に「背二貼セル文書」として書信の一部と思しき四行が記録される。現在の影印史料には確認できない貴重な資料と思われるが、本稿とは関連しないので校録は省く。

(33) 上部に「㊦モリソン本ニ奥書ノ写真アリ」と記される。

〔付記〕 ロンドン調査については湖南に随行した今西龍の記録ノートが別に内藤文庫に所蔵される。これについては稿を改めたい。

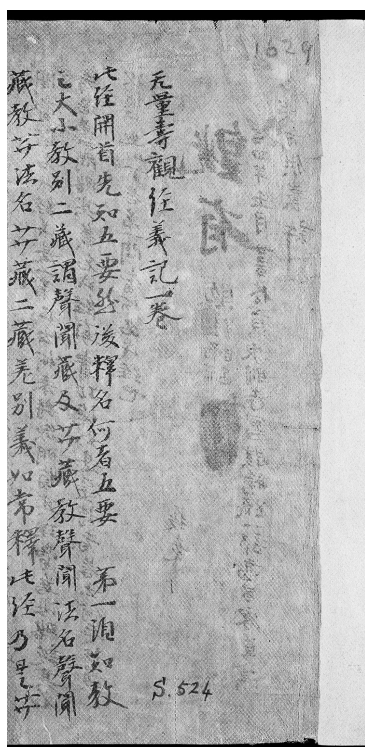


写真 1



写真 2